

安心・安全は自分たちの手で



正月早々大森第十中学校で、中学一年生と自治会役員が一体となって防災訓練を行いました。

これまで毎月第二木曜日に避難所運営協議会を開催してきましたが、今回は生徒や保護者に避難所の役割を正しく理解してもらう事を重点的に訓練を行いました。

午前10時30分に地震が発生し、生徒は机の下にもぐり、身の安全を確保したのち、武道場に避難し保護者も一緒に大田区の防災事業と、自治会の防災体制の説明を受けました。

その後グループに分かれて、避難所受け入れ訓練、仮設トイレ組み立て訓練、生活用水確保訓練、炊き出し訓練等を実施しました。

一年生だけの合同訓練でしたが、生徒たちはみな私語もなく真剣に話を聞き、訓練にも取り組んでくれました。その真面目さには、とても嬉しく頼もしく感じました。

今後はこの活動を毎年恒例行事として続けていこうと考えています。五年後には今回一緒に活動した中学生が18歳になっており、大学生が立派な社会人になっています。きっと地域活動に参加してくれる若者に成長していると思います。

防災訓練は、これで終わり、これで大丈夫という事はありません。これからも繰り返し行っていく予定にしております。

(上池上自治会会長・海老澤信吉)

公益社団法人洗足風致協会の紹介

洗足池のポートでおなじみの洗足風致協会は1933年(昭和8年)に近郊の有力地主10名が発起人となり社団法人として設立されました。昨年で創立80年になります。かつてはこのような風致地区における自然環境の保護・育成を目的とした風致協会が都内で約40ありました。しかしその後の都市化・市街化の波に吞まれその多くが活動の場を失い消滅、現在残っているのは洗足風致協会だけになってしまいました。



昭和60年代に所有地の一部を東京都に売却しましたが、平成になってから残りの大部分の土地15000坪を大田区へ寄贈したことにより公園は大田区立洗足池公園になり風致協会はその管理の支援を行っています。活動としては公園の整備・改修支援、毎年太鼓橋(池月橋)に幽玄な楽音が流れる「春宵の響き」、見物人の行列が出来る「ほたる鑑賞会」を主催するほか大森六中のほたる復活プロジェクト支援など幅広く活動しています。

以上はふれあい雪谷の編集委員が洗足風致協会の守屋事務長よりお話を伺いまとめました。洗足池の自然が守られ皆さまの憩いの場所として末永く残るよう願っています。

(笹丸・荒井啓治)

自治会活動に参加して

私が雪谷石川台自治会に初めて参加したのは「クリーン大田強化月間」でした。自治会館前に集合している皆さんとは初対面です。私は少し緊張していました。

グループに分かれ作業開始。町内の清掃をして回りました。日差しが強く、みんなの顔も上気していました。この活動で町会の人達とお話ができて、親近感を覚え、今後の行事にも参加してみようと思いました。

盆踊り大会では役員の方々や、お手伝いの中学生の夕食作りをしました。先輩の方々は手際よく準備しており、まごまごしている私に、「大丈夫よ。最初は皆そうだから」との優しい言葉。それで気持ちがすっかり楽になりました。準備が終わったところへ、模擬店活動に参加していた石川台中学校の生徒さん達が食事にきました。その姿は日焼けした顔に、お揃いのTシャツ、とても頼もしく感じました。祭りも佳境に入り、覚えたばかりの盆踊りを皆さんに交じって踊りました。

秋の防災訓練には「消火器」と「AED」の指導を受け、貴重な体験をしました。慌てないで使えるようまた参加したいと思います。

自治会活動に参加していろいろ体験し、一つの行事でも準備から片付けまで、皆一丸となって協力している姿が深く心に残りました。多くを学び、楽しい体験が出来ました。

(石川台・倉田清子)

お詫びと訂正

「ふれあい雪谷」平成26年新年号「新年の吟」につきまして掲載内容に誤りがございましたので、訂正いたします。

誤「池の面を 染めて美人は 初菫」
正「池の面を 染めて美はし 初菫」

誤「初雲や 松借景に 二重橋」
正「初雪や 松借景に 二重橋」

編 集 後 記

第22回冬期オリンピック・ソチ大会は史上最多の88ヶ国と地域が参加した雪と氷の祭典が17日間の日程を終えた。

7期連続出場し偉業をなしとげた、ジャンプの葛西選手は仲間から伝説の人と呼ばれていた。

また、浅田真央さんのフリーの演技に日本中、いや世界中の人が感動し涙を流した。たとえメダルには手がとどかなくても、全力を出しきった選手に拍手と喝采を送りたい。

(南雪谷・立麻裕稔)

ふれあい雪谷(創刊・平成2年(1990)12月20日) 年4回発行

(1月・新年号/4月・さくら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号/の1日発行)

[発行日] 平成26年(2014年)さくら号 4月1日(通巻・第94号) 発行

[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]「ふれあい雪谷」編集委員会

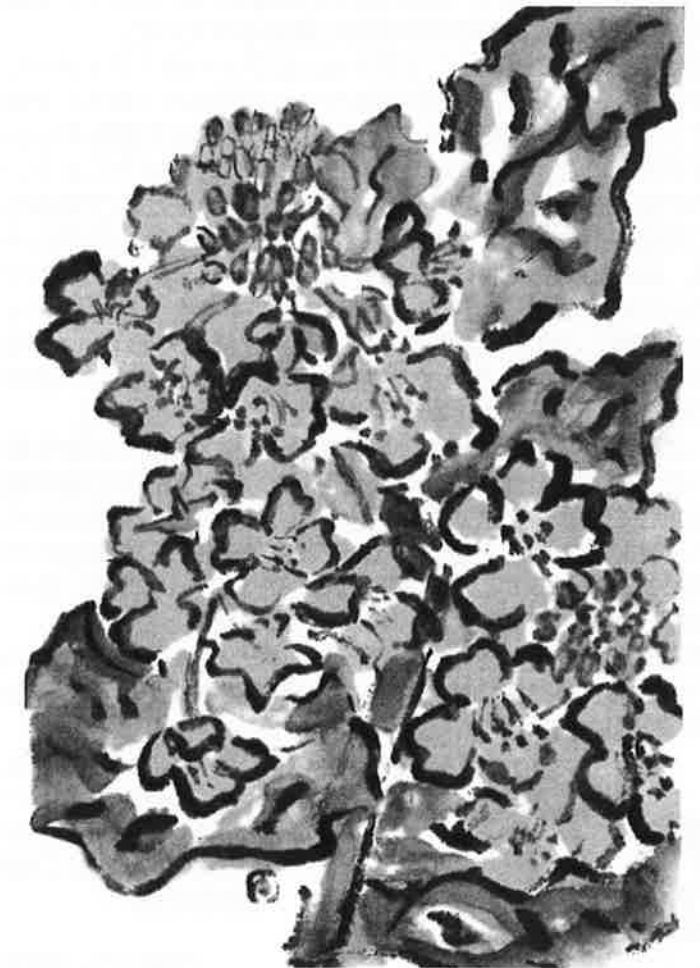
[連絡先] 雪谷特別出張所

〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい
雪谷

平成26年 4月 さくら号 通巻第94号



小池 新岡 英子さんの作品

バチカン国際音楽祭に参加して

「西本さんとバチカン国際音楽祭に参加しませんか？」と私の出身大学である大阪音楽大学同窓会関東支部の支部長さんから皆に声をかけられた。西本さんというのは、今や世界で活躍されている女性指揮者「西本智実さん」のことである。容姿はタカラヅカの男役のような方といえば、思い当たる方も大勢いらっしゃるだろう。西本智実さんは私達と同窓生であり、同窓会に顔を出してくださったこともある。

その西本さんがバチカン国際音楽祭とサンピエトロ大聖堂でのミサに招聘されたというのだ。この枢機卿によるミサへの招聘は今回アジアで初めてという。以前から合唱団を作りたい、と支部長さんには話しておられたそうで、その合唱団に私達も参加し、バチカンに行くことになったのだ。一般公募で入団された方と私達同窓生と東京の音大を卒業された方達300人の合唱団になった。名前は「イルミナート合唱団」。

しかしここからが大変。本番は11月9日と10日というのに既に時は7月になっていた。しかも全国から公募されている。西本さんは、被災地に出向いて一緒に第九を演奏されたりしている関係もあり、東北から大勢の方が合唱団に参加されていた。

曲目は9日のミサでは「オラショ」とグノーの「チェーリア荘厳ミサ曲」。10日の音楽祭ではベートーベンの「第九」である。「オラショ」とは長崎県平戸生月島に伝え残った隠れキリシタンの歌である。西本さんの曾祖母が生月島出身ということで、処刑された聖人達の魂をバチカンにお返ししたい、という気持ちが強くこの曲を選ばれた。ラテン語でオーケストラなしのアカペラである。第九に関しては、学生時代に練習があったが、サボってばかりいた代償がきてしまい、私にとって一からの練習になってしまった。週に3回合同練習をし、勿論自主練習もして、10月の終わりには全曲暗譜することができるようになった。この西本さんとの練習期間、音楽的な事を色々勉強することができた。

いよいよ音楽祭への出発。私達は修学旅行のように胸を躍らせていた。現地に着き、行動を共にするグループの中に岩手県から参加されている方が20名程いらした。お話をする機会がたくさんあり、被災地のことを細かく伺うことが出来た。被災されている方の思いを背負ってこの音楽祭に参加されているのだ。私はここで初めて西本さんがミサに招聘された意味を知った。

音楽祭の後、「私達はまた被災地に帰らなくてはいけない。」という言葉が今も胸に残っている。私達は決してあの日のことを忘れてはいけないのだ。

最後に音楽祭では、初めてのスタンディングオペレーションが起こる大成功だったことをご報告しておきたい。

(希望ヶ丘・平岡文子)



散歩道・呑川を歩く

今回は洗足池を起点に呑川沿いを池上橋まで歩いてみました。

洗足池駅から中原街道(都道2号線)を多摩川方面に歩いて、呑川に架かる「石川橋」の手前を左折し、下流に向かって「池上橋」まで橋の名前をたどって、最初に東急池上線のガード下に「一ノ橋」があり、川を跨いで区立一の橋公園が隣接しています。

次に「二之橋」「宮前橋」「山下橋」「西の橋」と「雪の橋」の対岸には区立雪谷小学校の川沿いに桜並木があり、次の「居村橋」の対岸、ニチレイ研究センターの所にも桜の木があります。

次の「円長寺橋」から「鶴の橋」「水神橋」までの対岸に区立雪谷中学校があり、ここにも川沿いに桜並木が続いています。

この呑川沿いの桜並木は川面まで枝を伸ばし、春には美しい桜の花が咲き誇り、花びらが川面に流れるさまは風情があります。

「円長寺橋」を左折し、区立ピノキオ児童公園、ルーテル雪ヶ谷教会前の坂を真直ぐ上がると荏原病院に突き当たります。

次は「鷹の橋」「谷中橋」「東橋」(この「谷中橋」と「東橋」の間には左側に若い桜が植樹されている)JR新幹線のガードに平行して「境橋」の左手前には大田区で唯一という広い畑があります。JR新幹線・横須賀線のガードをくぐると「芹が谷橋」「本村橋」「道々橋」対岸には樹林寺があります。

さらに進むと「久根橋」から「長栄橋」にかけて呑川は右に大きくカーブしています。「八幡橋」「仲之橋」「根方橋」「長栄橋」「北の橋」と最後に「池上橋」(国道1号線・第二京浜国道)にたどり着きます。

なお「長栄橋」から「池上橋」の対岸のマンション沿いの歩道にも桜並木があります。

「石川橋」から「池上橋」までの橋の数は全部で25橋で、距離は約2.8キロ。洗足池駅から歩いて約1時間の行程でした。

天気の良い日、あなたも歩いてみませんか？

(東雪・西本頼雄)

第5回小池公園春祭り開催のお知らせ

小池自治会と小池若者組合では、今年も洗足風致協会の協賛を得て、下記のとおり開催いたします。

○日 時 4月5日(土)
午前10:00～午後1:00
※雨天4月6日(日)
○場 所 小池公園
○催し物 餅つき、綿アメ、宝釣り、
輪投げ、ヨーヨー釣り、
スーパーボールすくい等



“小池公園の春を皆さまお誘いあわせのうえ
お出かけください”

洗足区民センター土曜文化講座

平成24年9月から始まった洗足区民センター土曜文化講座に通っています。定員70名、キャンセル待ちが出る程、珠玉の講座です。

アットホームな量数の大広間で聴く最新の研究成果等情報満載の貴重なお話の数々。思わず深遠な日本文化の恩恵に浴している幸いに感謝しています。刀剣を前にしての実演もあり、身近な地元本門寺の歴史、映像を通し思いがけない仏像の見方など、丁寧にまとめられた資料を参考に、新発見の連続です。講師陣にも伝わってくるこの会場の熱気です。名物袴姿のセンター副所長竹内さんが毎回この企画発信をして下さっています。

【過去の講座】

第1回「池上本門寺を考古学する」

立正大学名誉教授 坂詰 秀一

第2回「本阿彌家が紡ぐ日本刀の美と心」

25代 本阿彌道弘(号 光洲)

第3回「今こそ思索の時 日本古代の仏像が語るもの」

興福寺国宝館長 金子 啓明

第4回「江戸狩野派の絵画に迫る」

根津美術館学芸部長 松原 茂

第5回「もっと知りたい…仏像の魅力Ⅰ」

第6回「もっと知りたい…仏像の魅力Ⅱ」

成城大学文芸部芸術学科教授 岩佐 光晴

【次回】

第7回 6月7日(土) 18:00～19:30

「日本刀鑑賞入門」(仮称) 東京芸術大学教授 原田 一敏

※敬称略

桜の開花と共に心潤う季節が巡ってきました。地域自慢のあなたのお薦めは？ 御投稿お待ちしております。

(池の台・柏三八子)



俳句

連風の蒼天分ち息わかち
かげろふに掴まるごとく漢来る
柿若葉仏頂面の影正す
畳目の一つ浮き立つ春障子
声を積む帝釈天の花の昼

春寒や護符一枚の夕厨
柿若葉墨痕なぞる指の先
つがなく木霊を返し花は葉に
日脚伸ぶ影一寸を刻みつつ
晩節の思案にけむる雛納め

漢一いつい男の意
(東中・岩波博庸)



家内安全